

---

# 魔法少女リリカルなのは 無限の力を持つ英雄

H1

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは 無限の力を持つ英雄

### 【Nコード】

N3801T

### 【作者名】

H1

### 【あらすじ】

いきなり神に世界を変えろって言われたけど、原作の知識なんか全く無いぜ？

大丈夫かよこれ・・・

## プロローグ（前書き）

どうもー初めての作品です。  
至らない所等もありますが  
よろしくおねがいます。

## プロローグ

ここは・・・何処だ？・・・  
真つ白い空間に一人の青年がいた。

「えーとバイトから帰ってる途中でいきなり」あたりが眩しくなつたと思つたら此処にいたと・・・って此処何処だよ！？さっさと帰りたいたいよ!!」

青年が少し動揺していると

「あのーすみません。」 後ろから声が聞こえた。

「ん？後ろから声が？しかし誰もいない・・・気のせいかな？」

「こつちですよー！」また後ろから声が聞こえた。

「一体誰なんん・・・誰だこの子供？」そこには一人の子供が立っていた。

「あのー始めまして。 榊 智也様。私は貴方の言うところの神様です。」

そう子供は自己紹介を始めた。

（は？何言つてんだこの幼い・・・ゲフン少女は、でも俺の名前知つてたしな・・・本当に神なのか？）

俺は少し警戒しながら神を見た。

「そう警戒しないでください。いきなりこちらの世界に飛ばしてしまい申し訳ありません。後私の名前はアテナと言います」（そう言ってお辞儀をしてくる少女。

（やべっ可愛い・・・じゃなくてアテナ？どっかで聞いたことある様な無い様な・・・まあいっか）俺は神様とやらの質問する。

「んで何で俺は此処に飛ばされたんだ？。ってか此処何処？」  
とりあえず一番知りたい事を聞いてみる。

「此処は天界とでも言っておきます。でも貴方は生きているのでただ真つ白な空間にしか見えませんが・・・。」アテナはそう言う。

天界って・・・まあ此処の場所はわかった・・・

「なるほど・・・んでじゃあ次の質問なんで俺は此処に呼ばれたの？」

意味不明な答えばつたらキレそうだけどな。

「はい。実は貴方にはある世界に転生して欲しいのです。」これもちゃんと答えてくれた。

（転生つて・・・てことは俺は何かしらの事があつて呼ばれたのね。つてもある世界ねえ・・・一体何処なのよ。）

「ふむふむ。俺を呼んだ目的もわかった。んじゃ最後かな？何でおれが選ばれたのか？かな？」墓にも人は居るのに何故に俺・・・。

「はい。それは、貴方には力があるからです。その未来を見れる力があればその世界を守り救うことが出来ます。」最後の質問もアテナはスパspaと答えてくれた。

力・・・かまあ確かにあるけどこんな欲しくて貰ったわけじゃないのに。むしろいらないし。

「何でこの力が世界を救うんだ？それに俺はこの力がうざくてしょうがないんだが・・・。」

俺の力・・・それは一種の予知能力みたいなものだ。例えるならガンダムWのゼロシステムの強化版だと思ってくれば良い。

喧嘩に勝つにはこう動けば勝てる、試験などで此処を勉強すればいい等まあこんな感じで俺は未来が見えてしまう。おかげで俺には連れという連れが居なかった。まあそれでも連るんでくれていた仲間はあるが・・・。

「その力は生まれながらにして得ていた力。貴方が得るための力だったんですよ。」アテナがやさしく言ってくる。

「ふん、欲しくて得たわけじゃない。それで俺に何をさせるんだ？俺は少し不機嫌になりながら聞く。

「えーと、ある世界に転生して欲しいとは言いましたね？その世界を救っていただきたいのです。」いきなりとんでもないことを言うアテナ。

「世界を救えだあ？いきなり言われても訳わかんねえよ。大体俺に

は関係なくね？」俺は強めに言ってる。

「あーそれはそうですが・・・どうしても救って欲しいんです。」  
そうアテナも言ってくる。

世界って言われても一体何の世界だよ・・・いきなり外国にでも飛ばされんのか？と思っていると。

「貴方に行ってもらいたい世界は平行世界です。その世界のもの語りがおかしくなっちゃったのです。ですので貴方に介入してもらいその物語を元に戻して欲しいのです。」とエレナが言ってきた。

（は？平行世界ってパラレルワールドだよな？アニメとか漫画の。

そんな所に行けんのか？それにどの世界かもわからないし、何より

・・・面倒だ。）

俺は基本面倒事は嫌いだ。基本誰かと一緒にやる程度で自分から率先して動きはしない。だが・・・

「悪いが、面倒は嫌いだな・・・断る・・・と言いたいが何かやばそうだな。俺が介入しないとその世界の先は破滅・・・か？」俺はアテナに聞く。

「はい。貴方が介入しなければ間違いなくその世界は破滅して他の人達の記憶からも消えてなくなります。だから！お願いします。どうか世界を救って下さい！！」力強くお願いするアテナ。

「・・・」

「あの・・・駄目でしょうか？」涙目になって俺を見てくるアテナ。

（はあー俺もお人よしだな・・・それに今度は俺が守ってみせる。もう何も守れないのは沢山だ。少しでも守れるなら俺は戦ってる。）

「分かった。その世界を守ってみるよ。俺に出来る限りのことだけだな。」

俺はアテナにそう言う。

「！！ありがとうございます。ぐすつ本当に。ありがとうございます。いま・・・ぐすつ」むせび泣きながら礼をいつてくる。

「気にするな。んで、俺はどの世界に行けばいいんだ？」やると決めたからには維持でも守ってみせるさ。しかしどの世界だ？ガンダ

ムだったらMS乗って暴れられるのかな？・・・ちよつといいかも。「えーと行って欲しい世界はリリカルなのは世界です。」エレナが世界の名前を言ってきた。

（リリカルなのは？確か連れの所で1、2話見ただけだったが、魔法がどうたら工たらでロスとロギアだか管理局がどうとかだったよな？）

あまり興味の無いアニメなどは全く見ない智也であった。

「智也様の考えている世界で合っています。その世界のシナリオ・と言うかストーリーを戻していただきたいのです。」

アテナが言ってくる。

「なるほどね、了解した。まあ何とかやってみるさ。」

「それなら智也様に神の力を与えましょう。5個まで願いを言って下さい。」

「5個かあ、んじゃまず身体能力、魔力MAXで。二つ目、俺の知ってるガンダムのMSに変身できる能力を、三つ目、日本刀のような武器が欲しい出来れば連結して長刀みたいになるやつ、四つつ目、容姿を出来る限りイケメンにして、赤髪、黒目で10人中7人位が惚れるかんじで、五つ目、テイルズの召術を使えるようにしてくれ。これだけだ。」

何かずいぶんとチートだな。ぶつちやけMSだったらケンプファーになれればいいんだが・・・だってカツコイイやんケンプファー。あれこそ男の機体だろ！！チェーンマインで特攻とかやりたいしね

（笑）

「はい、OKです。全て与えられましたよ。ではおねがいしますね。」

「おうさ、出来る限りはやってみるぜ。」アテナに向かって微笑む。すると俺の体が透け始めてきた。おろ？そろそろ行くのかな？

「では智也様、よろしくお願いします。」お辞儀をしてくるアテナ。  
「おう！行って来るぜ」そうして、俺はリリカルなのはの世界に転生した。

これから始まるのは元のシナリオから外れたもう一つのストーリー。  
魔法少女リリカルなのは 無限の力を持つ英雄始まります。

## プロローグ（後書き）

始まりました リリカルなのは無限の力を持つ英雄。

更新など遅れるかもしれませんが、頑張って生きたいと思います。

感想やアドバイスなど大募集中です。

よろしくお願いしますm（- -）m

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3801t/>

---

魔法少女リリカルなのは 無限の力を持つ英雄

2011年10月9日02時51分発行